陸奥新報　２０２４年（令和６年）１０月１２日（土）１５面　掲載

弘大の歴史と生態系

学芸員を目指す学生が企画展

旧制弘前高資料や昆虫標本

弘　前

弘前大学で学芸員を目指す学生の実習成果をまとめた企画展「とびだせ学芸員！展　弘前大学の学芸員教育」が20日まで、同大資料館で開かれている。学生が調査・整理した同大の前身である旧制弘前高校に関する資料や、採集・制作した文京町キャンパスに生息するチョウ類の標本など約100点を展示。2021年度からの調査・研究をまとめた内容で、同大の歴史、生態系の変化に迫る。（稲葉智絵）

学芸員を目指す学生の実習成果を展示している企画展

県内外の博物館などで活躍する学芸員を多数輩出している弘前大。2021年度の学芸員課程の履修科目「博物館実習Ⅱ」で、同大附属図書館所蔵の旧制弘前高に関する資料の調査・整理を開始し、実習成果を資料館の一角に展示した。22年度からは2班に分かれ、文系班が同校の資料整理、自然系班が文京町キャンパス内に生息する昆虫類の調査、標本作りを担い、資料館での展示も続けた。

今年度は人文社会科学部や農学生命科学部などの4年生34人が履修。

企画展は両班のこれまでの成果をまとめ、①旧制弘前高校資料②文京町キャンパス生息昆虫類標本③弘前大学発！活躍する学芸員たち―の3部構成とした。文系班は同校で鉱物学、地質学、地理学を担当した小岩井兼輝教授（1869～1938年）が樺太調査で採集したアンモナイトの化石や満州国（現中国東北部）の鉱物資源を記した地図など戦前の資料を展示。自然系班はチョウ類とトンボ類の標本を展示している。

担当教員で農学生命科学部附属白神自然環境研究センター長の中村剛之教授は「県内に生息していなかったヤマトシジミやキタキチョウなどを確認した。（企画展で）キャンパスやその周辺の環境変化を知ってもらいたい」と話した。

もう一人の担当教員である人文社会科学部の葉山茂准教授は「学芸員は調査研究だけでなく、後世に伝える役目を担う。興味がある中高生はぜひ足を運んでほしい」と呼び掛けた。

開館時間は午前10時～午後4時（最終入館午後3時半）。休館日は日曜日、祝日（ただし、20日は開館）。問い合わせは資料館（☎0172㊴3432）へ。

※この記事は陸奥新報社の提供です。
この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。
[問い合わせ先] 弘前大学資料館
jm3432@hirosaki-u.ac.jp